

「第三者評価を受けて～事業者からのコメント～」

今 町 保 育 所

第三者評価を受けるにあたって、自己評価を職員一人一人が行ったり、保育内容をグループや全体で検討したり、全職員一緒に保育室等の環境を観て周って意見交換する場を持つたりしました。この過程は職員全員が、自分たちの保育を振り返り、課題を確認しあう良い機会となりました。そして今後も専門職としての資質向上と、保育内容の充実に向けて努力することの大切さを、再認識致しました。

子どもの発達援助 については、『3歳以上児も日常的に楽器を楽しめる工夫を』というご助言を頂きました。わらべうた遊びや、リズム表現活動は日頃から楽しんで来ましたが、早速楽器にも自由に触れる事の出来るように致しました。さらに子どもたちが楽しめるように保育環境を創意工夫して行きたいと思います。

子育て支援 については、『地域に対して施設や園庭の開放に向けて工夫を』というご指摘がありました。しかしながら、開放したいと思いつつも、いつでも出入りご自由にとは言い難い今の世の中です。育児サークルでの申し込みや、事前連絡のあった方や、事務室に申し出られた方には、気持ち良く過ごして頂くように心がけています。危機管理について“在園児の安全確保”を第一にしながら、当保育所の出来る子育て支援を前向きに考え努力して行きたいと思います。

職員の研修 について、『臨時職員の研修についても十分な機会を』というご助言を頂きました。保育実践の場でお互い学びあうのも大切ですが、保育の質を高めるためには、研修の機会を計画的に設けなければならないと考え直しました。

保育内容については、土を生かした花や野菜作り、それに伴う人々との交流や、食育への取り組み、障害児保育や人権についての取り組みなどの、自然や人を大切に思う心を育てる保育を目指している点に、多くのよい評価をして頂いたようです。

また、市民センター 旧・市民福祉センター を拠点とした年長者や小学校や他の保育所等地域の方々との交流や、他の専門機関との連携もよい評価をして頂きました。

地域の中で頼りになる保育所となるように、そして子どもたちが人として生きて行くための大切な基礎を培う乳幼児期（保育所時代）に、どのような経験が望まれるのかを保護者・地域と共に考えながら、保育所・保育者として出来ることを頑張っていきたいと思えます。